

ICT環境を活用した学修者本位の学修の実現に関する計画・評価指標・取組み状況

1. kyonet(教育ネットワークシステム)による学修成果可視化情報を活用した学修指導の充実

【計画内容】

- ・学修活動・学修成果に関するデータの蓄積・集約(ログ集約・分析)と可視化
- ・学修ポートフォリオにより可視化された学修成果に基づく、習熟度に対応した学修指導の充実

【取組み状況】

- ・kyonetの「学修ポートフォリオ」においてディプロマ・ポリシー到達度のレーダーチャートやGPAの推移を全学生に可視化しており、担任(アカデミック・アドバイザー)がこれに基づいた学生指導を実施している(学年初期面談は全学生を対象に実施)。

2. kyonetによる学修成果可視化情報を活用した教育の充実

【計画内容】

- ・可視化された学修成果に基づく、学修者本位の観点でのカリキュラムの点検・評価・改善の実施

【取組み状況】

- ・学修状況はkyonetの学生カルテでディプロマ・ポリシー到達度等を可視化している。また、全学生の成績データをもとにしたディプロマ・ポリシー到達度(学修成果)の分析結果を可視化し、全学教育推進機構運営会議等でカリキュラムの改善に関する検討を実施している。

計画の評価指標

<アウトプット指標>

- ・担任(アカデミック・アドバイザー)による学修指導の実施数 各学生に対し年間1回以上
- ・自己点検・評価における可視化データに基づいた授業等の改善の実施数 5件以上

<アウトカム指標>

- ・授業評価アンケートにおける、授業科目の到達目標を獲得できたと自己評価する学生数の割合 80%以上
- ・学修行動調査における、履修指導に関して「非常に満足している」の割合 40%